

図画工作科のねらい

- (1) 造形的な能力を働かせると共に、自ら作り出す喜びを味わい、様々な表し方や見方に触れ、創造的に表現する態度を育てるようにします。
- (2) 材料などの特徴を捉え、想像力を働かせて主題の表し方を構想するとともに、美しさなどを考え、創造表現の能力、デザインや創造的な工作の能力を高めるようにします。
- (3) 作品などを進んで鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、感性を高めるとともに、それら

学習予定

学期	学習する単元の名称	主な学習内容
前期	自分の顔 詩と絵で伝えよう (春見つけ) わたしの町	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡を見ながら自分を見つめて描く。 ・友だちの作品のよさを知る。 ・伝えたい事がらを文章や簡単なスケッチに表してみる。 ・風景に託した思いがよく伝わるように画面を構成し絵の具等の使い方を工夫する。 ・自分の好きな場所を表現する。 ・できた作品を鑑賞しながら心に残ったことについて話し合う。 ・作品を見てどんなどころに材料の特徴を生かしているかを話し合う。
	くねくねアート (針金などの金属を使って) 詩と絵で伝えよう (夏見つけ) ユラユラ クルクル	<ul style="list-style-type: none"> ・針金の特性を生かして好きな形を作ることを楽しむ。 ・線材としての特性を生かして、いろいろ試しながら美しく丈夫な構成をする。 ・友だちの作品のよさを知る。 ・伝えたい事がらを文章や簡単なスケッチに表してみる。 ・どんな材料を使ってどんな構成にするかなど見通しを持って制作する。 ・動きがスムーズにできるように計画的に部品を組み立てていく。 ・友だちの作品のよさを知る。
後期	表し方の広がり 心広がる場面 わたしの運動会 気持ちをほる、刷る	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書美術館や、絵画を鑑賞して感想を話し合う。 ・物語を読んだり聞いたりして心を動かされた場面を選び構想を練る。 ・場面に合わせて構図を決めて水彩絵の具を効果的に使う。 ・友だちの作品のよさを知る。 ・運動会で自分が気に入っている思い出の場所を選び、構図をスケッチしてみる。 ・自分が活躍している場面を想像しながら表現方法や材料を決めて立体に表す。 ・色や刷りの効果を確認しながら版を作って刷る。 ・作品を見せ合いながら将来の夢について友だちと語り合う。 ・友だちの作品のよさを知る。
	願いや思いを形や色に・・・ 伝え合おう 板を生かして (卒業制作)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書美術館や、絵画を鑑賞して感想を話し合う。 ・絵を見て、地球の未来や平和について語り合う。 ・造形図鑑に興味を持ち、形や色に思いを込める。 ・どんな入れ物を作るか決める。 ・作りたい物を簡単な絵や図にかいたり、紙で試作したりする。 ・部品を接合し、必要に応じてちょうつがいや留め金をつける。 ・友だちの作品のよさを知る。

評価の観点

授業への参加態度、準備物、制作意欲、作品(構図・アイデア・デザイン)、発表、用具の使い方などを参考にして、評価し

図工科では、次の4つの観点で領域ごとに総合的に評価します。

- ①学習に関心を持ち、進んで取り組もうとする。
- ②想像力を働かせ、自分らしい発想をし、豊かに表現することができる。
- ③表したいことに合わせて材料や用具を効果的に使い、様々な表し方を工夫することができる。
- ④自分たちの作品や造形作品のよさや美しさを感じ取ったり、味わったりすることができる。